

令和5年度 立川市立幸小学校 授業改善推進プラン

学校の教育目標	◎自分で考え行うことも ○なかよく力を合わせる子ども	○粘り強くやりぬく子ども ○心と体をきたえる子ども
---------	-------------------------------	------------------------------

児童に育成を目指す資質・能力	複数の教科や学年全体に共通する取り組み 幸授業スタンダード
①課題意識をもつ力 ②根拠を明確にして考え・表現する力 ③比較・関連付けの力 ④統合的・発展的に考える力	・課題意識（問い）をもたせて、個の学びやグループ・ペアによる学び合い学習を取り入れるとともに、既習事項や事実を生かして、複数の事象を比較・関連させて、統合的・発展的に思考・表現できる場の設定を重視する。 ・思考・表現できる場を設定する際には、「ことバンク」を作成・活用するとともに、ICT機器を効果的に活用して、言葉や文に着目させ、読む、書く、話す、聞く活動を重視し的確に位置付ける。 ・一単位時間のまとめの段階では、自己評価の内容・方法を工夫し、自分自身を振り返り、統合・発展など、次の学習につなげていくとともに、自分のよさを自覚し発揮できる場を的確に位置付ける。

教科	教科で育成を目指す資質・能力	資質・能力を育成するための具体的な取組（学習活動など）					
国語	○日常に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。 ○日常における人とかかわりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。	・クラス全体だけでなく、ペア・グループ学習など小集団で伝え合う場も設定し、自分の意見を持ち、またそれを伝えることができるようにする。(②) ・ハンドサインにより、自分と友達の見えを比較し表現する。(③)	・文章の中の言葉を根拠として自分の考えを表現させる。(②) ・自分の思いと比べて体験と関係づけたりしながら文章を読んだり、考えたことを表現させたりする。(③)	・物語や説明文の読み取りの場面では、心情を読み取る際に根拠となる文章を発言できるようにする。(②) ・考えを発言する前に、友達と考えを共有する時間を取り、自分の考えと比較する。(③)	・「ことバンク」の言葉を価値付けながら自分の考えを書いたり、話したりするよう促す指導を取り入れる。(②) ・自分の考えと友達のを共有するペア・グループ活動を取り入れ、比較関連付けの力を育成する。(③)	・説明文でも物語文でも自分の考えを書く場面を多く設ける。(②) ・自分の意見や考えを言ったり書いたりするときにその考えの理由を明記するようにさせる。(②)	物語では、登場人物や場面を対比して読みを深める活動を取り入れる。(③)
社会	○地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と軍歌を通して社会生活について理解するとともに、様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ○社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会へのかかわり方を選択・判断したりする力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。		・ ・ ・	・資料をもとに、課題意識を持たせ、学習問題を作るようにする。(①) ・立川市の地図や資料を根拠として、考えを発言できるようにする。(②)	・玉川上水の見学を複数回行い、気付きや疑問から学びを深め、変化を感じ取る力を育成する。(①・③) ・学習のまとめとして「キャッチフレーズ」をつくる活動を取り入れることで、これまでの学びを根拠に、単元の内容における今後の課題について統合的・発展的に考えを表現する力を育成する。(①・④)	・農業、漁業等の学習において、自分の生活と結び付けて考えさせることで興味関心を引き出す。(①)	・複数の資料を提示し、比較・関連付ける場を設定する。(③・④)
算数	○数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに、日常の事象を数理的に処理する技能を身に付ける。 ○日常の事象を数理的にとらえ見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見出し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・適格に表したり、目的に応じて柔軟に表したりする力を養う。	・既習事項の復習やコトバンクの活用により、児童が根拠をもって思考したり、統合的・発展的な考えに気付いたりできるようにする。(②・③)	・規則性を見付けやすくなるように資料等を提示して、比較・関連付ける場を設定する。(③・④)	・ICT を活用して前時の板書をモニターに映し、本時との違いを比較する。(③) ・一時間の授業の振り返りの時間をもち、友達と関わりあいながらまとめを子どもの言葉でつくる。(④)	・日常生活場面に近い問題場면을提示することで、生活の中で活用していく力を育成する。(④) ・単元の中で、前時との違いを考える時間を確保し、考え方の共通点や違いに着目し、問題解決する力を育成する。(③・④)	・新たな課題を解決するために、既習事項をもとに考える楽しさを経験させる。(②・④)	・生活場面や児童にとって身近な場면을提示し、学習意欲を高める。(①) ・お互いの考えを共有する場を設定する(②)
理科	○自然の事物・減少についての理解を図り、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 ○観察、実験などを行い、問題解決の力を養う。			・ICT 機器を活用し、動画から課題をもち、予想を立てる。(①) ・生活体験等土台となる体験を、実験の予想の根拠にする。(②)	・予想や仮説を立てる時間を多く確保し、既習内容や生活経験を結び付けて考える力を育成する。(②・④)	・観察、実験において、その方法を自分たちで考える場を設ける。(②)	・実験・観察において、その結果について、比較・関連付ける場を取り入れる(③)
生活	○活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。 ○身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。	・生活経験を振り返ったり、学習活動を振り返ったりすることで、課題意識（問い）がうまれるよう単元計画を設定する。(①)	・地域の人的・物的資源を活用することで、学習意欲を高めるとともに、地域に関わっていこうとする意欲をもたせる。(①、④)				
音楽	○曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 ○音楽表現を工夫することや、音楽をあげわって聞くことができるようにする。	・お互いの考えを共有する場を設定する。(②)	・体を動かしながら拍感や曲想をつかませることで学習意欲を高める。(①) ・音楽を聴いて、感じたことや気づいたことを根拠をもって表現させる場を設定する。(②)	・新たな教材では、必ず既習を生かすようにし比較し、曲想と音楽の構造について根拠をもって言葉で表現させる。(②、③)	・新たな教材では、必ず既習を生かすようにし比較したり、曲想と音楽の構造について根拠をもって言葉で表現させる。(②、③)	・鑑賞では演奏形態の違うものを準備し、児童が自ら選んだ演奏と他の演奏とを比較関連付けながら音楽を聴いたり、根拠をもって考えを伝えられたりするようにする。(②、③)	・鑑賞では演奏形態の違うものを準備し、児童が自ら選んだ演奏と他の演奏とを比較関連付けながら音楽を聴いたり、根拠をもって考えを伝えられるようにする。(②、③)
図工	○対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行爲を通して理解するとともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。 ○造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	・身近なものに触れ、心地よさに浸ったり、材料に興味を持たせたりすることで、学習意欲を高める。(①) ・お互いの作品を褒め合い、比較関連し、共有する場を設定する。(③)	・お互いの作品を鑑賞して作品のよさを具体的に伝えさせることで、根拠をもって表現させる。(②)	・新たな題材では、既習を生かすようにし、材料や用具の使い方や表し方について根拠をもって自分が表したい作品をつくる。(②)	・新たな題材では、既習を生かすようにし、材料や用具の使い方や表し方について根拠をもって自分が表したい作品をつくる。(②)	・工作を表す活動において、作品に意図や用途がある程度明確で、生活を楽しくしたり伝え合ったりするものなどを表せるようにする。(②、④)	・鑑賞では、表現方法が違う作品を複数提示し、児童が比較関連付けしながら作品の造形的なよさ、美しさ、表現の意図や特徴を、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深められるようにする。(③)
家庭	○家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 ○日常生活の中から問題を見出して課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、問題を解決する力を養う。					・自分の生活経験の中で使える場面を考えながら学習に取り組ませ、学んだことを実践する場を設ける。(④)	・自分の生活経験などから考えたことを表現し、交流する場を設定する。(②・③)
体育	○各種の運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、基本的な動きを身に付けるようにする。 ○各種の運動遊びの行い方を工夫するとともに、考えたことを他者に伝える力を養う。	・良い動きや楽しい動きを共有する場を設定する。(②) ・自分に合った目標を設定する。(①)	・友達の動きのよさを見付けて伝える場を設定する。(②) ・単元の終末に、学習の成果を生かして楽しむ活動を設定して、学習意欲を高める。(①)	・ICT を活用し、自分の運動の様子を動画撮影し、正しい動きと比べて自分の動きを改善できるようにする。(③) ・授業の終わりには学習カードに自分や友達の良さについて気づいたことを振り返る時間をとることで、次時の改善に生かす。(④)	・ふりかえりをする時間を確保し、これまでの自分と今日の自分の自己ののびと、今後の課題を設定する力を育成する。(①・②)	・個人差に応じた場を設定し、課題を解決するための場を自分たちで選ばせる。(①)	・自分の動きと友達の動きを比較し、自分の動きをよりよくするための練習やポイントを考える活動を取り入れる(④)
外国語	○外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。 ○コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。			・ALT の発音や CD の音声を聞いて、外国語と日本語の違いを比較しながら話す。(③) ・授業の終わりには学習カードに自分や友達の良さについて気づいたことを振り返る時間を取り、外国語への理解を深める。(④)	・ALT の英語から何を話しているかを考える問いを意図的に取り入れることで、外国語の発音やコミュニケーションに慣れ親しむ。(③) ・日本語の単語の言い方と、外国語の単語の言い方を比べる発問を取り入れ、似ているところや違いに着目する力を育成する。(③・④)	・いろいろな子とコミュニケーションを取る場を設け、英語で表現したり、お互いに発音を聞き合ったりさせる。(②・③)	・日本と外国との文化の違いについて比較することで、考えを深める学習活動を意図的に取り入れる。(③)

